

■イベント実施

野庭のみらい お手伝いプロジェクト 第1弾

素材で
おうちで眠っている
「アートこどもみこし」を飾りませんか？

【野庭のみらい お手伝いプロジェクト】とは・・・
アートやデザインの力を使って、長い時間を経たもの・
場所の魅力アップをお手伝いする、横浜市のまちづくり
プロジェクトです。

●9月29日(日) 秋のふれあい祭りではその第一弾として、
アーティストと一緒にちょっと変わった「アートこども
みこし」を作ります。

●不要になった
包装紙、フィルム包装紙、ボタン、ビーズ、リボン、レース
など、光を通す素材、キラキラするもの、可愛いもの、面白
いと思ったものがございましたら、お祭りの当日、野庭中
学校跡地のワークショップのブースまでお持ちください。

●皆様にお持ちいただいた素材を使って、ワークショップ
参加者が「アートこどもみこし」を飾っていきます。

ぜひ、ご協力をお願いいたします！

横浜市にぎわいスポーツ文化局創造都市推進課
横浜市都市整備局都市デザイン室

こども
アートみこし
ワークショップ

11月17日(日)
@ のばマルシェ

一度役割りを終えた身近な「元何か」を、もう一度、見直すと「何か」
になる事を知ってもらい、普段から身の回りの見方を変えてみる事
で、意外「ゆたかなイばしょ」は身近にあるかもしれません。

- いらなくなったペットボトルに好きなもの(リボンや
ボタン)をくっつけて、おみこしのかざりをつくろう！
つけたいものをもってきてね！
- みんなでデコったおみこしを、みんなでかつごう！
- アンケートにこたえて、キャンドルライトをもらおう！

おみこしのかざりをつくろう
ワークショップ
10時から15時
参加できる人数 先着40人

「わっしょい／おみこしパレード」
ワークショップに参加しなくても、
おみこしをかつげるよ！
① 12時30分から ② 14時15分から

使ったモノ
元酒樽 元学校の体育館の床材
元ペットボトル 元間引きした竹
の全て横浜市内のモノ
普段使わない頭の中の部分

nitehi works (似非)

イばしょのイは居心地の「因」、それぞれ異なる「異」、相「違」でもあります。因・異・違、
を通じて自分の見方(内面を見直す)「場」づくりです。
これまでの見方を変えて新たな価値を創造する場を、日常の中に戻していきます。

ゆたかなイばしょ

野庭住宅・野庭園地 みらいビジョンお手伝いプロジェクト

みらいトークin野庭
～ 次の世代につながる「ひと工夫」～

2025.3.15(土) 13:00-17:00

場所 野庭地区センター 中・小会議室 3階 (西区野庭町612 Tel: 045-848-0110)
定員 30名程度 ※定員を大幅に超えた場合は抽選とさせていただきます
内容 野庭ミニ散策、事例紹介トーク、交流会
主催 横浜市 (都市整備局 都市デザイン室・にぎわいスポーツ文化局 創造都市推進課)

★ トーク 登壇者 ★
場づくり: こすみのANNEX 若林 智子さん / 佐藤 真美さん / 佐藤 真美さん
価値が高まる共用空間: みどりのコミュニティ 佐藤 真美さん / 佐藤 真美さん
野庭アート: 野庭アートプロジェクト 佐藤 真美さん / 佐藤 真美さん

申込方法
HPアドレス
www.city.yokohama.jp/citydesign/niwa
HPアドレス
www.city.yokohama.jp/citydesign/niwa

申込期間
1月27日(日)～2月28日(日)

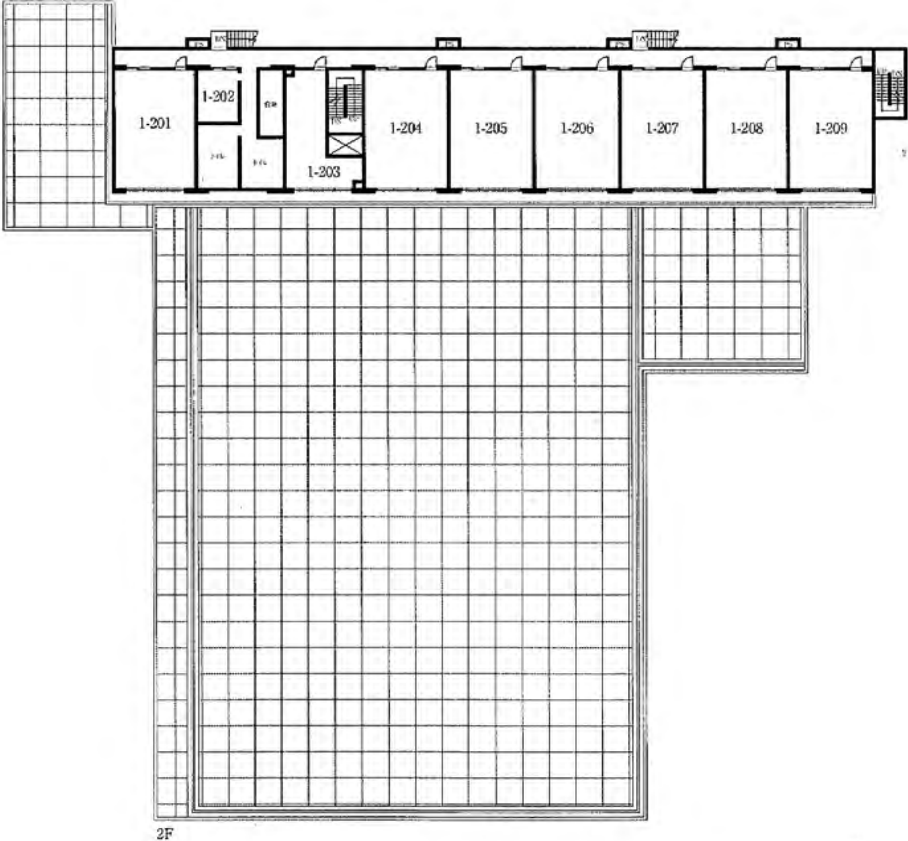
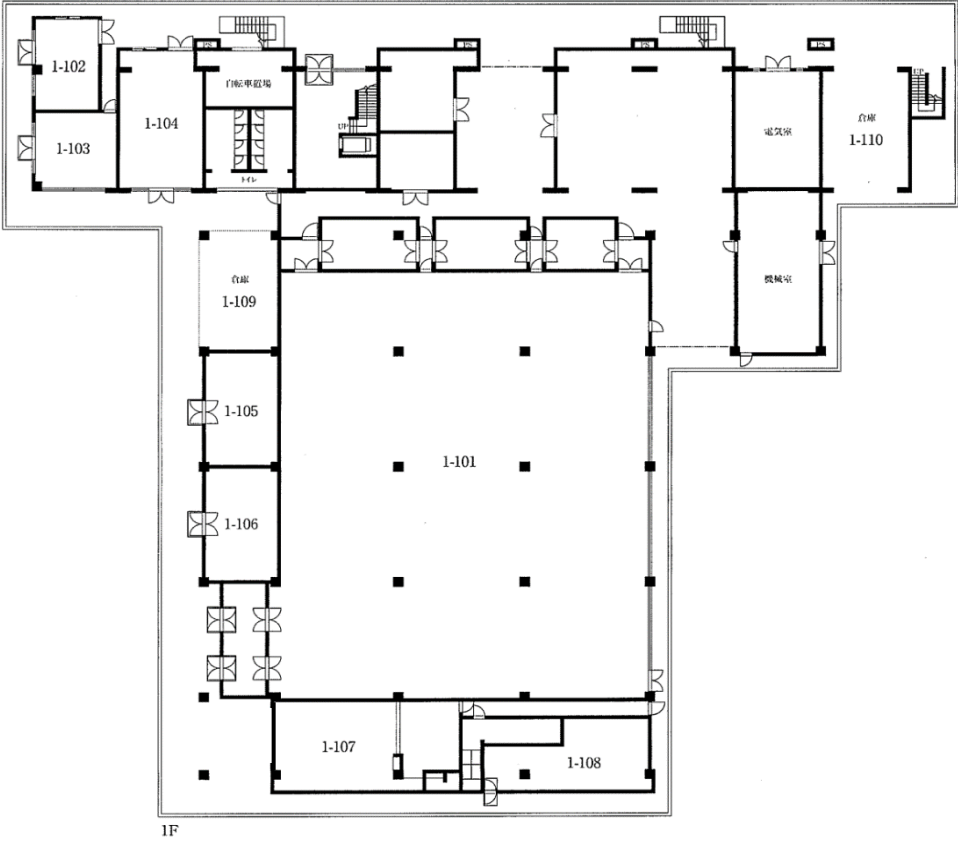
お問合せ先
都市整備局 都市デザイン室
045-671-2023
担当 伊藤、蓮華

★同時開催★ 幼保～中高生向きのアートワークショップ 申込不要
「ゆたかなイばしょ」をアートラウンジ 似て非ず ECO★デコワークショップ
場所 野庭地区センター 工芸室
定員 50名(当日先着)
●アップサイクルがテーマのアートワークショップです。
●捨てるはずだったモノ(木の板、廃材)たちに
家で眠る不要になったモノ(布、ボタン等、
木の枝)などでデコレーションして
オンラインでのメイクイン野庭オブジェを作ります。
●作成したオブジェはお持ち帰りいただけます。

にぎわいスポーツ文化局 創造都市推進課
045-671-3968 受付 2月28日

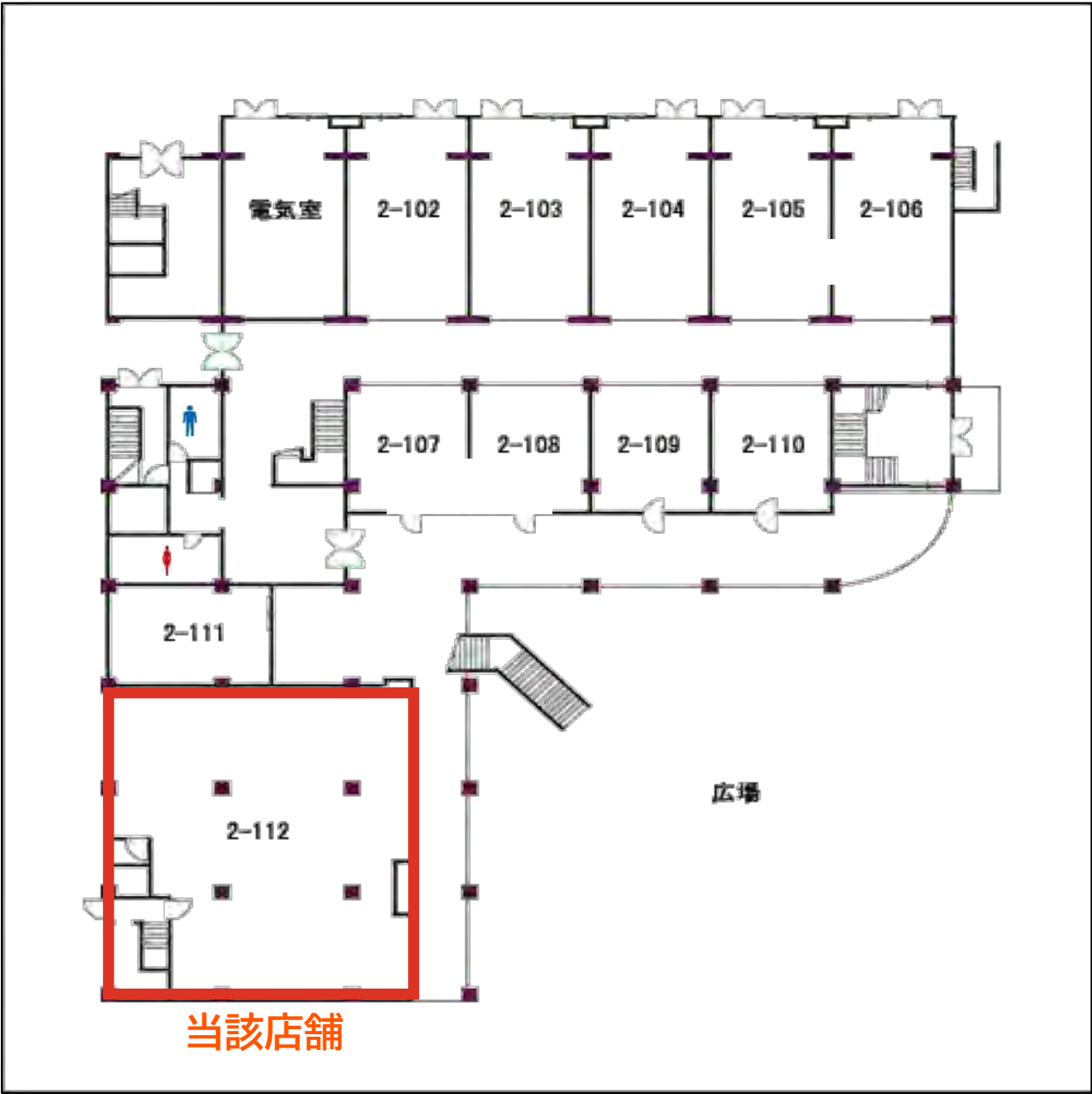


野庭団地センター 1号棟

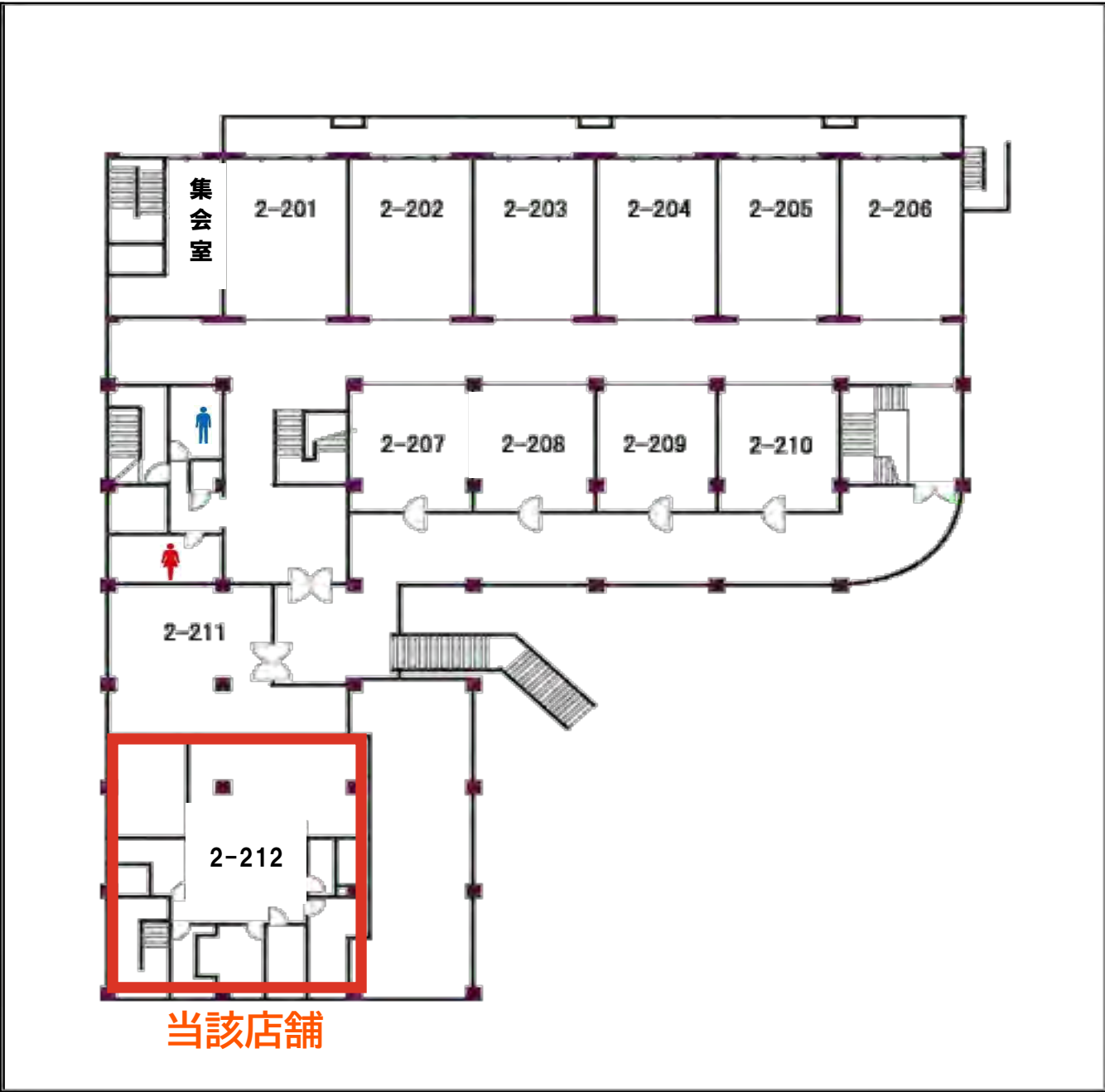


野庭団地センター 2号棟平面図

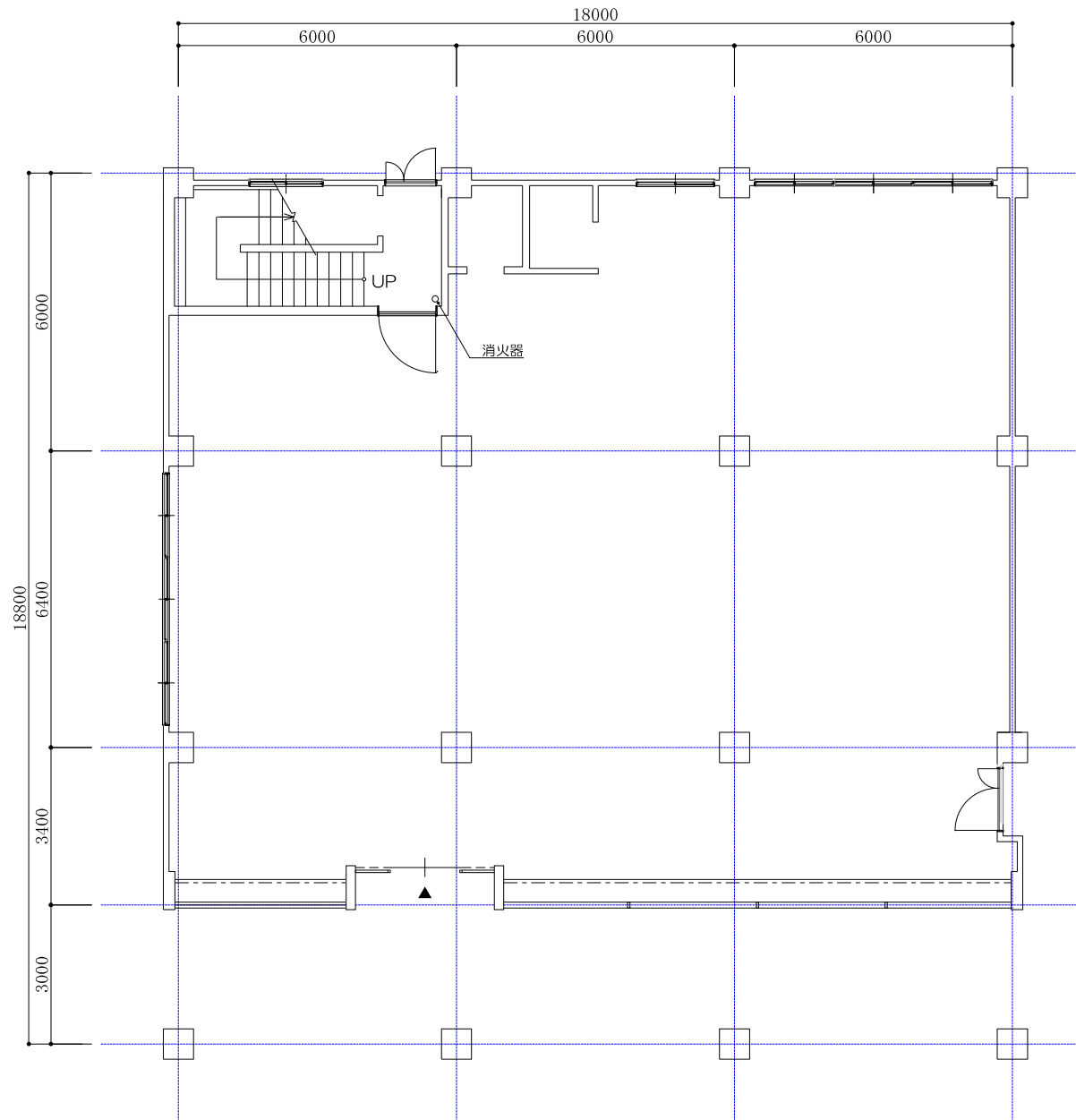
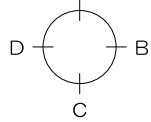
1F



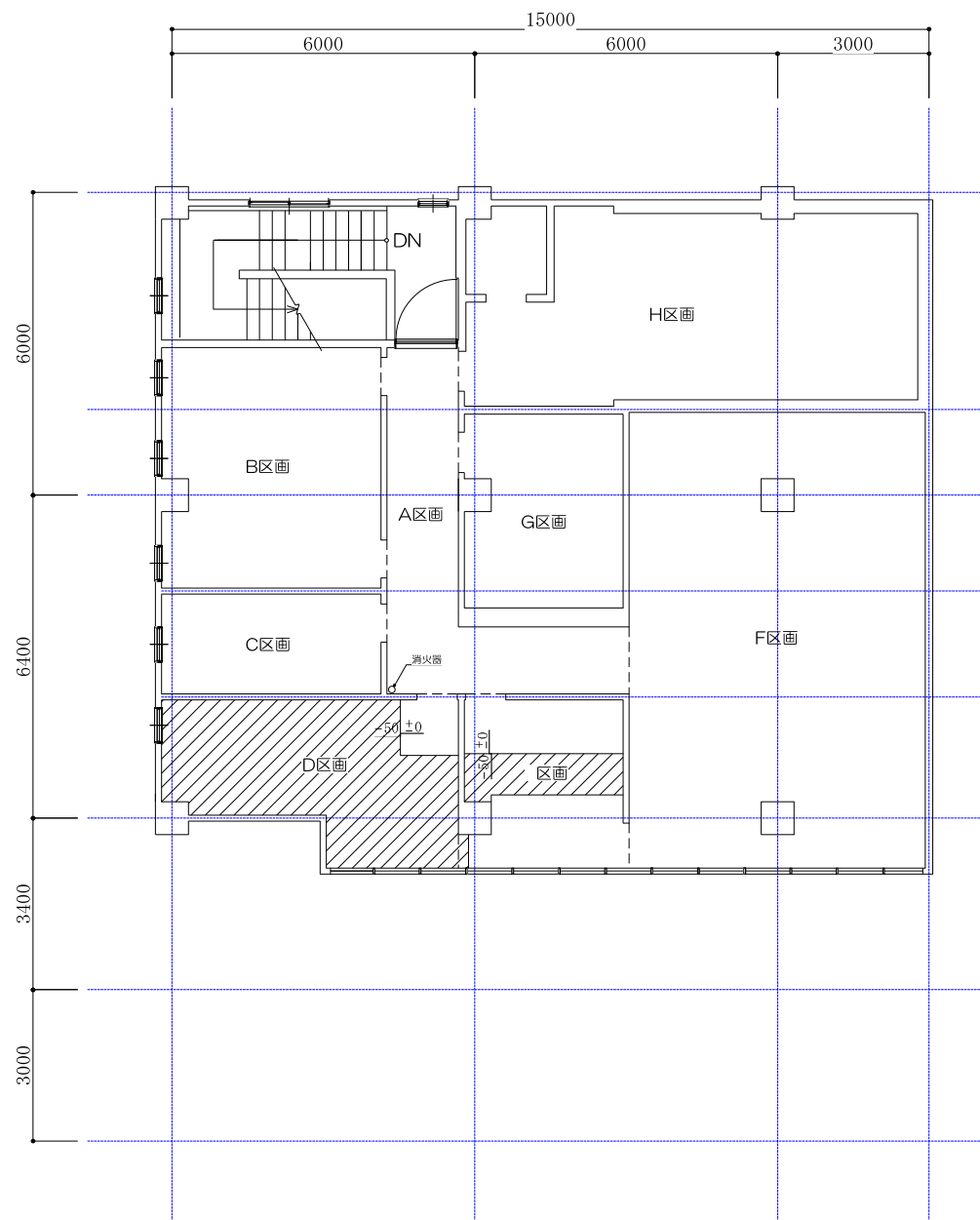
2F



別添資料2



訂 正	特 記	実際と図面との相違が多少あります。現況優先			担 当	作 成	図 番
			図 名	1 階平面図	作 図	縮 尺	



訂 正		特 記	実際と図面との相違が多少あります。現況優先			担 当		作 成		図 番
			図 名		2階平面図		作 図		縮 尺	

CITY OF YOKOHAMA

新たな都市デザインあり方検討 (審議)

都市整備局 都市デザイン室

2024. 1. 26 都市美対策審議会 政策検討部会

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

本日の説明内容

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

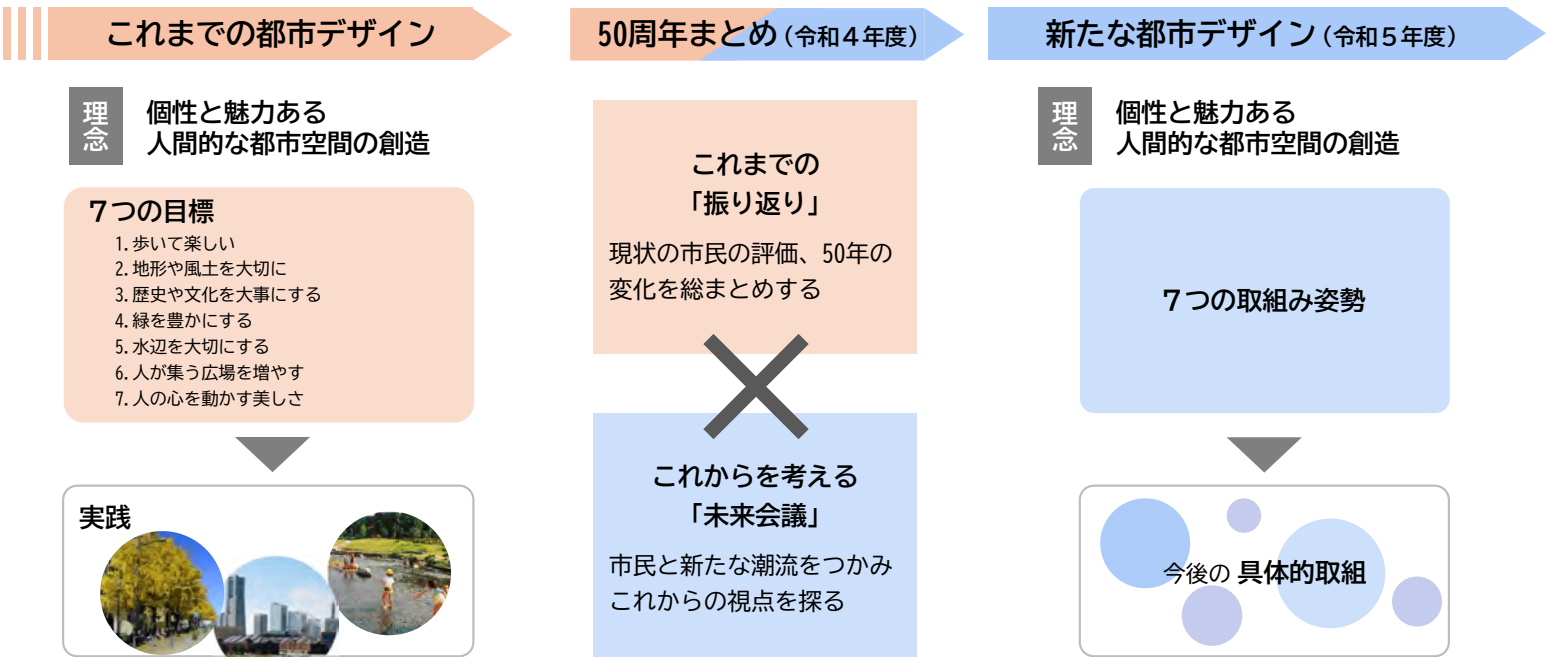
検討の全体像	<ul style="list-style-type: none">新たな都市デザインあり方検討の全体像
新たな都市デザイン	<ul style="list-style-type: none">新たな都市デザイン7つの取組み姿勢とは各取組み姿勢について
具体的取組みについて	<ul style="list-style-type: none">今後の具体的取組みの展開テーマ1：住宅地から「多様なライフスタイルをかなえるまち」へテーマ2：都心部での継続的・発展的な展開テーマ3：海をひらく
検討のまとめ方	<ul style="list-style-type: none">検討内容の発信都市マスへの位置付けスケジュール

本日の説明内容

検討の全体像	• 新たな都市デザインあり方検討の全体像
新たな都市デザイン	• 新たな都市デザイン • 7つの取組み姿勢とは • 各取組み姿勢について
具体的取組みについて	• 今後の具体的取組みの展開 • テーマ1：住宅地から「多様なライフスタイルをかなえるまち」へ • テーマ2：都心部での継続的・発展的な展開 • テーマ3：海をひらく
検討のまとめ方	• 検討内容の発信 • 都市マスへの位置付け • スケジュール

3

新たな都市デザインあり方検討の全体像



4

本日の説明内容

検討の全体像	• 新たな都市デザインあり方検討の全体像
新たな都市デザイン	• 新たな都市デザイン • 7つの取組み姿勢とは • 各取組み姿勢について
具体的取組みについて	• 今後の具体的取組みの展開 • テーマ1：住宅地から「多様なライフスタイルをかなえるまち」へ • テーマ2：都心部での継続的・発展的な展開 • テーマ3：海をひらく
検討のまとめ方	• 検討内容の発信 • 都市マスへの位置付け • スケジュール

5

新たな都市デザイン

理念『個性と魅力ある人間的な都市空間の創造』

⇒横浜の都市デザインそのものとして継承。「人間的」には多様化した価値観への対応も意識する

意義

個性と魅力ある人間的な都市空間によって

- 都市の価値を高める
- そこで出会い、ふれ合う人々のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を育み、引き継ぐ
- 地域のアイデンティティを磨き市内各地の魅力的な暮らしの選択肢を増やす
→個々人の自分らしい暮らしにフォーカスし、都心部の取組みを継続させつつ都心近郊・郊外への展開を進める

7つの取組み姿勢

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ
2. その人らしくいられることや個々人のあり方や、暮らしに寄り添う
3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める
4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える
5. 実験的な新しい取組みを、積極的にすすめ、サポートする
6. エリアコンセプトを描き、共有する
7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

令和4年度 未来会議より

社会背景

- ①生物多様性・循環型社会・自然との共生への対応
- ②防災・減災・レジリエンス、気候変動への対応
- ③少子高齢化社会のケア、子育て・子育てなど別領域との連携
- ④価値観の多様化をふまえた新たなコミュニティの創造
- ⑤新たな暮らし方に応じた身近な生活圏のデザイン

*子どもたちが主体的に育ちの模索を行うこと 6

7つの取組み姿勢について

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

横浜市はあらゆる主体と共に都市デザインに取り組めます。

これからの 7つの取組み姿勢

これから
大事にする
価値、目標

多様化への
対応

大切に
する
価値観や
進め方

最終的な
到達目標

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ
2. その人らしくいられることや個々人の暮らしに寄り添う
3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める
4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える
5. 実験的な新しい取組みを、積極的にすすめる、サポートする
6. エリアコンセプトを描き、共有する
7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

これまでの 7つの目標

1. 歩行者活動を擁護し、安全で快適な歩行者空間を確保する
2. 地域の植生や地形など、自然的特徴を大切にする
3. 地域の歴史的・文化的資産を大切にする
4. オープンスペースや緑を豊かにする
5. 海、川などの水辺空間を大切にする
6. 人と人がふれあえる場、コミュニケーションの場を増やす
7. 形態的、視覚的美しさを求める



各取組み姿勢について

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA



自然や歴史、
地域の個性を未来に引き継ぐ

自然的な特徴や、培ってきた歴史・文化、まちづくりの経緯など、「地域の個性」に着眼し、その価値を高めることで、未来に引き継いでいきます。



その人らしくいられることや
個々人の暮らしに寄り添う

人それぞれに違う価値観や、様々なライフステージに合わせて自分らしい暮らしが送れるよう、子育てやケア、働き方や移動のしやすさなどについて、都市空間を通じて支えていきます。



各取り組み姿勢について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA



様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める

異なる領域や主体間を**長期的・広域的・包摂的な視点**を持って横断的にコーディネートし、連携を促すことで、まちの魅力を高める「**触媒**」としての役目を果たしていきます。



3



地域の主体性や創造性が発揮できるよう環境を整える

ひろばや緑地、農地のような**公共的な空間に参加**しやすい環境、仕組み、制度を整えます。**地域の主体性や創造性を十分に発揮**できるようにすることで、特徴ある地域づくりや、多様な魅力につなげていきます。



(画像)横浜市HP

4

9

各取り組み姿勢について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA



実験的な新しい取組みを積極的にすすめ、サポートする

新しい技術や制度の実験的活用など、挑戦を伴う取り組みに積極的に関わることで、これまでにない都市の魅力づくりをすすめます。あわせて、地球環境やケア、新しいモビリティなど**社会背景や課題解決策にも先駆的に取り組み、横浜らしい進取の気質を大事**にしていきます。



(画像)国土交通省HP

5



エリアコンセプトを描き、共有する

エリアの持つ可能性や大切な価値に基づき、**目指す未来像**としてエリアコンセプトを描きます。これにより、コミュニケーションとその先の連携を促します。



6

10

各取組み姿勢について

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA



美しい、楽しいといった
人の心を動かす都市をつくる

歩きながら体験する都市の美しさや楽しさ、居心地の良さといった、人の心や情緒に響く、豊かな都市を目指していきます。
ここにしかない風景や文化を生み出すことで、住みたい、訪れたいといった気持ちやシビックプライドを育みます。



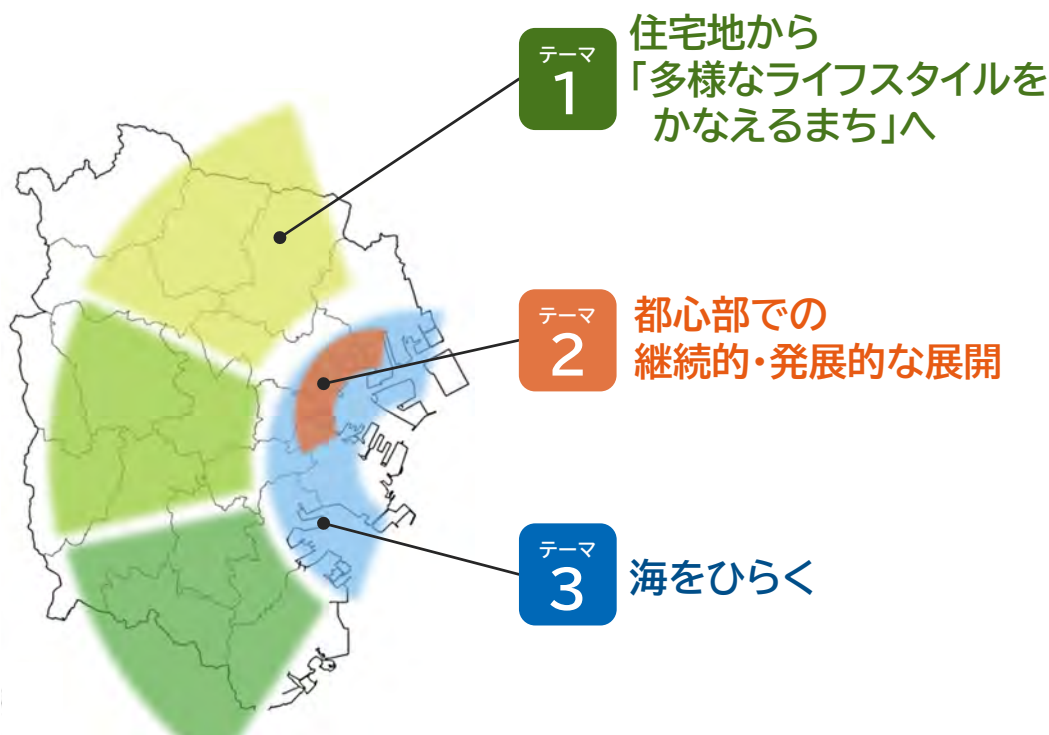
撮影／森 日出夫(3枚とも)

本日の説明内容

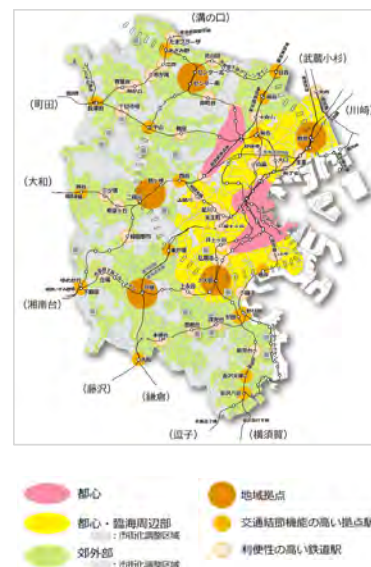
明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

検討の全体像	<ul style="list-style-type: none">新たな都市デザインあり方検討の全体像
新たな都市デザイン	<ul style="list-style-type: none">新たな都市デザイン7つの取組み姿勢とは各取組み姿勢について
具体的取組みについて	<ul style="list-style-type: none">今後の具体的取組みの展開テーマ1：住宅地から「多様なライフスタイルをかなえるまち」へテーマ2：都心部での継続的・発展的な展開テーマ3：海をひらく
検討のまとめ方	<ul style="list-style-type: none">検討内容の発信都市マスへの位置付けスケジュール

今後の具体的取組みの展開



都市計画マスタープランの改定の基本的考え方について（答申）より【暮らしの方針図】



13

テーマ1

住宅地から「多様なライフスタイルを支えるまち」へ

多くの市民の“暮らし”を支える郊外住宅地。画一的に開発された地域も、時を経て個性が生まれつつあり、価値観が多様化しているこの時宜を捉えて、その地域ならではの「ライフスタイルを支えるまち」を実現していく。

- ◆ 住宅地にひろばやコワーキングスペース、小商いの場所をつくる
- ◆ 水や緑の価値を高め、市民とのタッチポイントを増やす
- ◆ 自立的な、学びや遊びの機会、場所を増やす
- ◆ デザインによって価値を高め、循環型社会につなげる「アップサイクルのまちづくり」

機会

- ・空き家、空き地、団地再生
- ・働き方、住まい方の変化
- ・廃校、歴史的建造物の減失
- ・新たな市民活動の盛り上がり

先行事例



↑ フォレストアドベンチャー（緑とのタッチポイント）
（画像）グルメイ・エンジニアリング株式会社HP



↓ 野七里テラス（企業と戸建て住宅地の協働）
（画像）大和ハウスHP



↑ 左近山団地（拠点・ひろば・アートによる団地再生）
（写真提供）abanba



↓ 川の図書館（ライフスタイルの公共空間への発露）
（画像）ちよっとHP



↑ 小商いの建築（多用途/地域に開かれた住宅建築）
（画像）書籍「小商いの建築、街を動かす」

14

テーマ1 展開のイメージ



◆ 水や緑の価値を高め、市民とのタッチポイントを増やす

- ・企業との共創などで市民にとって分かりやすく、**価値の高い緑や農、水辺を増やしていく。**
- ・盛んな市民活動や身近な経済活動によって、地域に必要な**居場所や居心地の良さ**につなげていく。
- ・**GREEN×EXPO**を契機にして、自然資本としての緑の価値を再認識し、明日の風景として実現していく。

事例1

テントに泊まり、緑や公園の価値を再認識「inn the PARK」
(沼津市)



事例2

農や土に触れる生活を取り戻す
レンタルガーデン「コロニーロット」
(スウェーデン)



(画像)イエマガHP

事例3

川からアプローチが出来る、
川を楽しむためのカフェ
(三島市/源兵衛川)



15

テーマ1 展開のイメージ



◆ デザインによって価値を高め、循環型社会につなげる「アップサイクルのまちづくり」

- ・歴史的建造物や、空き家、学校などの解体などに伴う古材・廃材を再利用することで、**循環社会、その地域らしさの継承**につなげる
- ・デザインによって付加価値を高め、循環や再利用にとどまらず、**アップサイクル**を目指す
- ・地域の自主性や創造性を高め、DIYやブリコラージュ（あるもので何とかする）による**エリアの価値・個性の向上**を目指す

事例1

廃材を活かして、自分たちの街を自分たちでつくる
「リビルディングセンター」(米・ポートランド市)



(画像)クーリエ・ジャポンHP

事例2

野毛坂のピンコロ石を地域の
みんなで再利用「CASACO」(横浜市)



(画像)横浜市HP

16

テーマ
2

都心部での継続的・発展的な展開

街の個性である歴史や創造性を生かしたまちづくり、連続する歩行者空間、公共空間の積極的な利活用などをテーマに、これまで都心部で重点的に取組んできた都市デザインを継続していく。

さらに発展的な都市デザインの実践として、ウェルビーイングや環境共生などこれからの視点を持ち、横浜市全体をけん引する役割を果たしていく。

- ◆ 新たな景観的価値としての環境共生のまちづくり
- ◆ 誰もが使えるウェルビーイングな場が点在するまちづくり
- ◆ 歴史を生かしたまちづくりの新たな展開
- ◆ エリア間の接続性や、回遊性の改善によるホスピタリティの向上

機会

- ・関内駅前の連続した開発
- ・エリアマネジメントの機運の高まり
- ・環境配慮
- ・情報技術の向上
- ・戦後建築への期待感

先行事例



社会実験「ハマウエル」

Plateauタンジブルインターフェイス
画像：国土交通省HP



山下公園通りの歩行者天国社会実験（画像：ヨコハマ経済新聞）

ポートプラス（景観×環境配慮）



防火帯建築（歴史をいかしたまちづくりの新展開）

テーマ2 展開のイメージ



◆ 誰もが使えるウェルビーイングな場が点在するまちづくり

- ・中小企業が集積する既成市街地であっても、**心や身体、社会的な健康を支える機能**を個々の敷地で少しずつ実現し**連担**させる。
- ・**地域全体でウェルビーイングを向上**させ、充実した働き方や住まい方を実現する。
- ・まずは**公共的空間のウェル**を向上させることに取組む。
- ・**街づくりの方向性**の一つとして打ち出すことで企業や市民への理解を促し、将来的には公開空地のあり方や誘導用途などによって**制度による担保**を目指す。

街のウェルネットワークのイメージ

カラダの健康の場
屋上で軽い運動ならOK



ココロの健康の場
持っているアートを開放しよう



お茶と談笑の場なら提供しよう
カンケイを育む場

ビルのエントランスを皆に開放しよう
ハタラク効率化の場

事例1 ひらかれた拠点が地域の価値を高める「創造界隈」（関内・さくら通り／横浜市）



（画像）ヨコハマ経済新聞

事例2 ウェルを基軸にした新たな価値の創造「グリーンスプリングス」（商業施設／立川市）



事例3 ウェルビーイングな場を街にインストールする活動「ハマウエル」（横浜市）



テーマ2 展開のイメージ



◆ 歴史をいかしたまちづくりの新たな展開

- 建造物が伝える横浜の歴史や地域の物語を市民に伝え、歴史的建造物（特に戦後建築）のファンを増やしていく。
- 戦後建築は価値が分かりにくいことから、積極的な改修によって価値を高め、活用を促進するなど、歴史的価値だけでなく、まちづくりや景観の視点で総合的・積極的に評価する。
- 歴史を生かしたまちづくりの新たな展開を打ち出す（横浜市歴史的風致維持向上計画）。
- クラウドファンディングや国費導入などの財源確保や所有者と活用事業者とのマッチング、リノベーションまちづくりなどの、新しい手法を開拓していく。

事例1 戦後建築のファンをふやす（大阪・イケフェスなど）



（画像）日本経済新聞HP



事例2 大胆な改修で活用を促進し、建築の価値を高める （京都ロームシアター/上野・国際子ども図書館）



（画像）東畑建築事務所HP



（画像）国立国会図書館国際子ども図書館HP

19

テーマ2 展開のイメージ



◆ 新たな景観価値としての環境共生のまちづくり

- 開港以来の歴史性を主軸として展開してきた景観づくり・デザイン調整に木質化や立体的緑化のような「環境との共生」を新たな軸として加える。
- これまでも都市の価値を高めてきた景観形成に、環境配慮の街としての実践的な都市環境づくりを加えることで、新たな都市ブランディングにつなげる。

事例1 「30セントメリーアクス」 （イギリス ロンドン）

周辺の風環境への配慮
ダブルスキンによる高い環境性能



（画像）Google ストリートビュー

事例2 「垂直の森」 （イタリア ミラノ）

積極的な緑化と日照の最適化が
新しい風景を生む



（画像）CNN.co.jp HP

事例3 「パワーハウス」 （ノルウェー）

太陽光発電に効率的なデザインで
エネルギーポジティブなビルを実現



（画像）Solisnor HP

事例4 高層純木造耐火建築物 「Port Plus Ⅱ」(横浜市)

脱炭素への対応がとれる
新たな景観



20

横浜の大きな魅力資源である海や港などの水辺空間。都心部ではウォーターフロントの軸線として、公共空間や歩行者ネットワークの拡充を図ってきた。

しかし、依然として都心部以外は市民が水辺に近づけないことから、様々な契機を捉えて、市民の様々な活動の場として「海をひらく」ことを考える。

- ◆ 臨海部に立地する企業のアメニティ施設、企業緑地、敷地のシェア
- ◆ 海を持つエリアのコンセプトブック作成・共有し、各事業の結びつき強化や機能誘導を図るエリアブランディング
- ◆ 水際線の歩行者空間を顕在化する新しいルートの設定

機会

- ・臨海部の開発
- ・物流などへの機能転換
- ・防波堤の整備や民間の参入
- ・公有護岸のアップデート

先行事例



↑ 北浜テラス（水辺に顔を向ける）
（画像）大阪川床北浜テラスHP

↓ 金沢区の計画的な水辺



（画像）公共財団法人 横浜市緑の協会HP



↑ 天王洲アイル（水辺とエリアマネジメント）

↓ 竹芝干潟（開発に伴う環境整備）



（画像）水辺総研HP

21

テーマ3 展開のイメージ

◆ 臨海部の産業集積地における新たな魅力創出

- ・来街者・就業者・近隣の住民にとっての臨海部の価値を高める。
- ・京浜臨海部などの土地利用転換等を契機に、臨海部で企業が持つ水辺空間や、カフェ、緑地といったアメニティをシェアしてもらうなど、地域の価値につなげていく。
- ・モデル的な取り組みとして金沢区臨海部の空間デザインのコンセプトをまとめる。



事例1

都の運河ルネサンス構想
と民間活力がかみ合った
「天王洲アイル」（東京都）



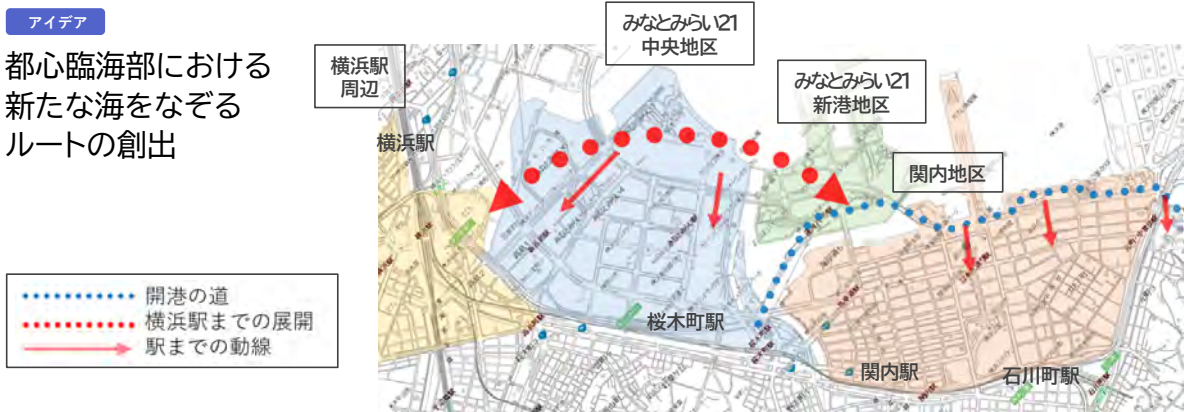
「産業観光」でのブランド向上を目指す
「京浜臨海部再編整備マスタープラン」

テーマ3 展開のイメージ



◆ 海をなぞる新たな歩行者ルートの設定

- これまでも桜木町駅～石川町駅周辺を範囲とする「開港の道」を設定し水際線を楽しむルートを確保してきた。まちづくりの進捗に合わせて、横浜駅周辺までエリアをまたいだ海をなぞる新しいルートの設定を行う。
- 特に夜間の歩行者空間の安心安全なルートの顕在化を検討する。



23

本日の説明内容

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

検討の全体像	• 新たな都市デザインあり方検討の全体像
新たな都市デザイン	• 新たな都市デザイン • 7つの取組み姿勢とは • 各取組み姿勢について
具体的取組みについて	• 今後の具体的取組みの展開 • テーマ1：住宅地から「多様なライフスタイルをかなえるまち」へ • テーマ2：都心部での継続的・発展的な展開 • テーマ3：海をひらく
検討のまとめ方	• 検討内容の発信 • 都市マスへの位置付け • スケジュール

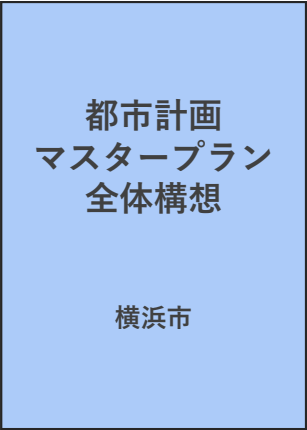
24

検討内容の発信

● 都市計画マスタープラン

● 広報ツール検討

「各局・企業・市民の各分野 × 都市デザイン」を目指す



広報パンフの改訂
新たな都市デザイン
+
これまでの取組み

庁内外向け
シンポジウム・研究会等
の開催

都市マスへの位置づけ

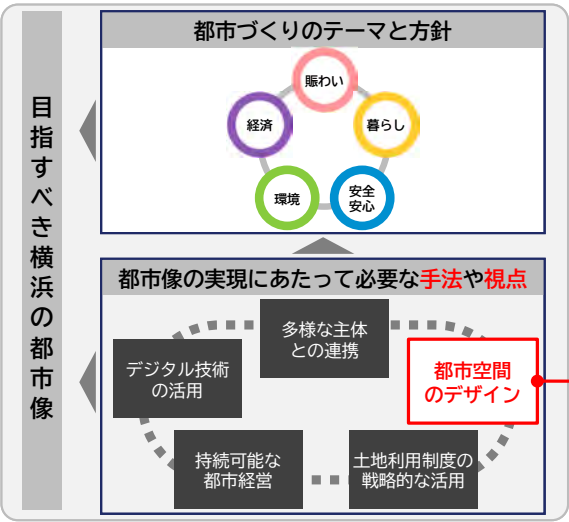
都市計画マスタープラン

都市計画に関する基本的な方針であるとともに、市民や企業などのまちづくりへの意欲的な参画を促し、協働でまちづくりを進めるためのツール

俯瞰 ↔ アイレベル

都市デザイン 7つの取組み姿勢

都市マスなどの俯瞰的な計画をふまえ、市民や企業などと共に都市空間や人々の活動も含めて横浜らしい風景づくりを具体的に進めるための取組み姿勢



共通する考え方として
都市マス各所に反映

記載

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ
2. 個々人のあり方や、暮らしに寄り添う
3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める
4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える
5. 実験的な新しい取り組みを、積極的にすすめ、サポートする
6. エリアコンセプトを描き、共有する
7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

スケジュール

